

オノマトペの語幹の拡張と品詞交替可能性

言語学・応用言語学専門分野

1LT09059G

榊原 愛

2009（平成 21）年入学

2013（平成 25）年 1 月提出

要旨

日本語において副詞として機能するオノマトペは、他の品詞としても機能することが可能である。たとえば、「する」を伴って動詞として用いることや、繁辞「だ」を伴って述語として用いることも可能であり、また、助詞「の」を伴って後続の名詞を修飾することもできる。本論文ではこれらの現象を品詞交替と呼ぶ。オノマトペの品詞交替可能性は、一見しただけでは、恣意的に決定されているものように見えるが、実際には、オノマトペが副詞用法で助詞とどのように共起するかによって、そのパターンは異なる。オノマトペの副詞的機能上の特徴に注目して例文を観察した結果、オノマトペは、副詞用法で「オノマトペ + と」、「オノマトペ + に」、あるいはその両方の形をとるかによって、それぞれ共通した品詞交替可能性を持っており、本論文では、実際にその品詞交替可能性がどのようなものであるかを示した。

目次

1. はじめに	1
2. 先行研究	3
3. 問題提起	7
4. 本論文の主張	10
4.1. オノマトペ + と	10
4.2. オノマトペ + に	11
4.3. オノマトペ + と / オノマトペ + に	12
5. オノマトペ + と	13
5.1. 感覚を表わすオノマトペ	13
5.2. 音声を表わすオノマトペ	15
5.3. 感情・態度を表わすオノマトペ	18
5.4. 動き・動作を表わすオノマトペ	21
5.5. 状態を表わすオノマトペ	24
6. オノマトペ + に	28
6.1. 感覚を表わすオノマトペ	28
6.2. 音声を表わすオノマトペ	30
6.3. 感情・態度を表わすオノマトペ	30
6.4. 動き・動作を表わすオノマトペ	31
6.5. 状態を表わすオノマトペ	32
7. オノマトペ + に / オノマトペ + と	36
7.1. 意味が同じオノマトペ	36
7.1.1. 感覚を表すオノマトペ	36
7.1.2. 音声を表すオノマトペ	38
7.1.3. 感情・態度を表すオノマトペ	38
7.1.4. 動き・動作を表わすオノマトペ	40
7.1.5. 状態を表わすオノマトペ	42
7.2. 意味が異なるオノマトペ	44
8. アクセントの影響	46
9. まとめ	48
10. 参考文献	50

1. はじめに

日本語には、数多くのオノマトペ表現があり、様々な用法や機能を有しているが、主に以下の例文のように副詞として機能することが多い¹。

(1) 冬場の乾燥でのどが**いがいが**と痛む。

そして、このように副詞として機能するオノマトペは、語形を変化させることで、(2)(3)のように言い換えることもできる。

- (2) a. 冬場の乾燥でのどが**いがいが**と痛む。
b. 冬場の乾燥でのどが**いがいが**する。(オノマトペ + する)
c. 冬場の乾燥でのどが**いがいが**だ。(オノマトペ + だ)
d. 冬場の乾燥で**いがいが**ののど。(オノマトペ + の)

- (3) a. これから落ちるであろう父親の雷を想像して、均は**がくがく**と震えた。
b. これから落ちるであろう父親の雷を想像して、均は**がくがく**する。
c. これから落ちるであろう父親の雷を想像して、均は**がくがく**だ。
d. これから落ちるであろう父親の雷を想像して、**がくがく**の均。

このように、ある副詞的機能を持つオノマトペが語形を変化させて副詞以外の品詞の機能を持つことが可能になる現象を、本論文では品詞交替と呼ぶ。

しかし、この品詞交替の現象は、どんなオノマトペでも可能というわけではない。次のように品詞交替が不可能な例も存在する。(4)では、(4a)を品詞交替させたその他すべての例文が容認不可能であり、(5)では、(5a)のオノマトペに動詞「する」を付加した(5b)の例文だけが容認不可能である。

¹ オノマトペは、複数の表現を含んだ名称である。そのため、ひとことにオノマトペという具体的な何を指した語であるのかが不明瞭である。したがって本論文では、小野(2007)の定義に従い、オノマトペという語を用いる。

(i) オノマトペとは、これまで、擬音語(また擬声語)・擬態語などとも呼ばれてきた言葉の総称である。オノマトペと呼ばれる類の言葉の中には、音を表しているとも、様子を表しているともとることができ、擬音語と擬態語の区別がつけにくいものが多い。また、擬音語・擬声語・擬態語の使い分けも人によって差がある。よって、最近では、用語上の無用な混乱を避けるために、これらを総称した「オノマトペ」という語を用いるのが一般的になりつつある。(小野正弘 2007 pp.7-9)

- (4) a. 迷子だろうか、小さな女の子が**えんえん**と泣いている。
 b. *迷子だろうか、小さな女の子が**えんえん**する。
 c. *迷子だろうか、小さな女の子が**えんえん**だ。
 d. *迷子だろうか、**えんえん**の小さな女の子。
- (5) a. 風船が**ばんばん**に膨らむ。
 b. *風船が**ばんばん**する。
 c. 風船が**ばんばん**だ。
 d. **ばんばん**の風船

このように、オノマトペの品詞交替可能性には違いがある。私たちは、普段、このようなオノマトペの違いがどのようなものであるかを明確に理解しているわけではないが、それぞれのオノマトペの品詞交替を使い分けることができている。そして、このことから、オノマトペには、品詞交替可能性を決定する何らかの要素が存在していると考えられる。

そこで、この要素を明らかにするために、次章では、オノマトペの品詞交替に対する先行研究を取り上げる。

2. 先行研究

オノマトペの品詞交替に関して述べた研究には、宮地(1978)、鈴木(1980)、中北(1991)、田守(1991)、田守・スコウラップ(1999)などがある。以下では、この中でも特に詳細な観察を行っている田守(1991)について述べる。田守(1991)によれば、オノマトペがどのような統語範疇として用いられるかは言語によって異なるが、日本語では、オノマトペは主に副詞として機能する。そして、この副詞としてのオノマトペは、その機能により、様態副詞、結果副詞、程度副詞、頻度副詞の4つに分けられる。(6)は、様態副詞として機能するオノマトペの例文であり、この種のオノマトペは動作の様態や状態を表している。

(6) 様態副詞

私も得意になって、手を**パンパン**と叩いて粉を落とし、悠然と席に戻った。

[田守・スコウラップ 1999: 49 (6b)]

(7)は、結果副詞として機能するオノマトペの例文である。田守(1991)によると、この種のオノマトペは、作用や動作によって状態変化がもたらされ、その結果変化した主体、あるいは対象の状態を表すものである。

(7) 結果副詞

ハイキングに出かけたが、夕立に遭い、頭から足の先まで**びしょびしょ**に濡れた。

[田守・スコウラップ 1999: 51 (17a)]

(8)は、程度副詞として機能するオノマトペの例文であり、状態性の意味を持つ語にかかって、その程度を限定している。

(8) 程度副詞

男の子の誕生を見て以来、道長は**めきめき**と陽気になっている。

[田守 1991: 45 (29a)]

(9)のオノマトペは、実現された事実の回数的なあり方を表す頻度副詞の例文である。

(9) 頻度副詞

近くにケーキの美味しい喫茶店が出来たので、**ちょいちょい**行くことにしている。

[田守・スコウラップ 1999: 55 (26a)]

この4つの中でも、田守（1991）は、本論文で問題にしている品詞交替について、二音節反復形をとる様態副詞のオノマトペと結果副詞のオノマトペの比較によって述べている。二音節反復系の形態をとる様態副詞のオノマトペと結果副詞のオノマトペには、まず、助詞との共起に関して相違がある。(10)と(11)のオノマトペは、どちらも二音節反復形の副詞であるが、(10)は様態副詞のオノマトペで、助詞「と」を随意的に伴う。それに対して、(11)は結果副詞のオノマトペであり、助詞「に」を義務的に伴う。

- (10) a. 稲光がぴかっと光ったかと思うと、雷がごろごろ（と）鳴った。
 b. 見知らぬ男にじろじろ（と）見られて、気味が悪かった [田守 1991: 127 (1)]
- (11) a. 夕立に遭って、服がびしょびしょに濡れた。
 b. 子供達は慣れない山道を歩いて、くたくたに疲れた。 [田守 1991: 127 (2)]

こうした違いから、田守（1991）は、次のような観察を提示している。(12)、(13)のオノマトペは、(10)のように様態副詞として機能するオノマトペである。

- (12) a. *雷がごろごろだ。 [田守 1991: 128 (3a)]
 b. *ごろごろの雷 [田守 1991: 128 (4a)]
- (13) a. *見知らぬ男がじろじろだ。 [田守 1991: 128 (3b)]
 b. *じろじろの見知らぬ男。 [田守 1991: 128 (4b)]

「ごろごろ」や「じろじろ」のような様態副詞のオノマトペは、(12)、(13)が示すとおり、繁辞「だ」を伴って述語として用いることができず、また、助詞「の」を伴って後続の名詞を修飾することも不可能である。これに対して、(11)のように結果副詞として機能するオノマトペは、(14)(15)に示すとおり、品詞交替が可能である。

- (14) a. 服がびしょびしょだ。 [田守 1991: 128 (5a)]
 b. びしょびしょの服。 [田守 1991: 128 (6a)]
- (15) a. 子供達がくたくただ。 [田守 1991: 128 (5b)]
 b. くたくたの子供達。 [田守 1991: 128 (6b)]

(14)、(15)から明らかなように、「びしょびしょ」や「くたくた」のような結果副詞は、様

態副詞では不可能であつたいずれの品詞交替も可能である。この事実から、田守（1991）の観察を(16)のようにまとめることが可能である。

- (16) a. **様態副詞**
 「オノマトペ + だ」「オノマトペ + の」のどちらの形も不可能である。
 b. **結果副詞**
 「オノマトペ + だ」「オノマトペ + の」のどちらの形も可能である。

また、田守（1991）は、日本語オノマトペは動詞としても用いることが可能であると報告している。「いらいら」から派生した「いらつく」や、「ざわざわ」から派生した「ざわめく」、「うねうね」から派生した「うねる」など、その形は様々だが、最も一般的かつ生産的な派生動詞は、オノマトペが「-する」という動詞に組み入れられて派生したものである。田守（1991）は、(17)に示すように、先述の二音節反復系のオノマトペも、「-する」という動詞に組み入れることができると述べている。

- (17) うとうとする、うろろうする、がさがさする、はきはきする、ばたばたする、ひりひりする、どきどきする、にやにやする、ぐずぐずする、ぶらぶらする、めそめそする、もたもたする [田守 1991: 50 (43)]

このような動詞への組み入れは、「勉強」などの名詞や「チェンジ」などの外来語にも見られる、日本語の最も一般的かつ、生産的な動詞化現象である。全てのオノマトペがこの方法で動詞化されるわけではないが、田守（1991）は、動詞化が可能なオノマトペ全てに共通した特徴を抽出することはできていない。しかしながら、このように動詞組み入れが可能なオノマトペは、「ざわざわ」「どんどん」など一部のオノマトペを除けば、全て音に関するもの以外のオノマトペであり、特に、(18)の「擬情語」のように抽象度が高いオノマトペほど、動詞組み入れ可能性が高いという観察も述べられている²。

- (18) いそいそする、かりかりする、いらいらする、うきうきする、くさくさする、くしゃくしゃする、うじうじする、うずうずする、くよくよする、さばさばする、びくびくする、そわそわする [田守 1991: 51 (50)]

また、副詞用法で「と」を随意的に伴うオノマトペは、その音韻形態に関係なく、全て動

² 田守（1991）では、「ざわざわ」「どんどん」など声を含む音に関するオノマトペを「(S)オノマトペ」、音以外のものに関するオノマトペを「(M)オノマトペ」と名付けている。

詞組み入れが可能であるとしている。このことから、「オノマトペ+する」についての田守（1991）の主張をまとめると、(19)のようになる。

- (19) 「オノマトペ + する」の形が可能なオノマトペ
- 音以外のものを表わしたオノマトペ
 - 「擬情語」のような抽象度が高いオノマトペ
 - 副詞用法で「と」を随意的に伴うオノマトペ

ここまでの品詞交替に関する田守（1991）の主張をまとめると、以下のようになる。

- (20) 田守（1991）の主張
- 結果副詞として機能するオノマトペは、「オノマトペ + だ」「オノマトペ + の」の形が可能である。
 - 音以外のものを表わした抽象度の高いオノマトペや副詞用法で「と」を随意的に伴うオノマトペは、「オノマトペ + する」の形が可能である。

しかし、実際に観察されるオノマトペの品詞交替可能性には、(20)の主張とは異なる事実が多く観察される。次章では、(20)の主張と異なる事実を示すオノマトペの品詞交替の例を提示する。

3. 問題提起

(20)にまとめた田守（1991）の主張によれば、繁碎「だ」と共に述語になったり、助詞「の」と共に修飾語になったりできるのは結果副詞として機能するオノマトペのみで、様態副詞のオノマトペでは、そのような品詞交替は不可能となるはずである。しかし実際には、様態副詞のオノマトペであっても「だ」を伴って述語として用いたり、「の」を伴って名詞を修飾したりすることができるオノマトペが存在する。例えば、(21)-(23)のオノマトペは、全て二音節反復系の音韻形態をとり、助詞「と」を随意的に伴う副詞である。これらのオノマトペは、動作に関わる様々な様態を記述したものであり、田守（1991）のいう様態副詞のオノマトペと同じ特徴をもっている。

- (21) a. ネジがゆるんで、椅子が**ぐらぐら**（と）ゆるる。
b. ネジがゆるんで、椅子が**ぐらぐら**だ。
c. ネジがゆるんで、**ぐらぐら**の椅子。
- (22) a. スピード違反の取り締まりを警戒して、車が**のろのろ**（と）進む。
b. スピード違反の取り締まりを警戒して、車が**のろのろ**だ。
c. スピード違反の取り締まりを警戒して、**のろのろ**の車。
- (23) a. ワックスをかけたので、床が**つるつる**（と）すべる。
b. ワックスをかけたので、床が**つるつる**だ。
c. ワックスをかけたので、**つるつる**の床。

田守（1991）の主張に従えば、様態副詞のオノマトペを用いた(21)-(23)の例文は品詞交替が不可能となるはずである。例えば(21)であれば、「だ」を伴って述語となる(21b)も、「の」を伴って名詞を修飾する(21c)も全て容認不可能になるはずである。(22)、(23)の例文も、(21)と同様に様態副詞のオノマトペを用いているので、田守（1991）に従えば、全ての品詞交替が不可能になるはずである。しかし、実際には(21)-(23)のオノマトペは、田守（1991）の主張とは異なり、様態副詞のオノマトペでありながら、品詞交替が可能である。このように、結果副詞だけでなく、様態副詞のオノマトペの中にも、品詞交替可能なオノマトペが確かに存在する。したがって、田守（1991）の主張は、これらのオノマトペの品詞交替に関する現象とは相反するものである。実際に品詞交替可能な例文である(14)や、(21)-(23)を見ても、オノマトペの特徴は様々で、品詞交替可能性はまるで無秩序なものに見える。

また、オノマトペに動詞「-する」を付加する形式も、先に述べた「-だ」、「-の」

の品詞交替と同じように無秩序に起こっているように見える。例えば、(24)と(25)は、どちらも副詞用法において「オノマトペ + と」の形が可能なオノマトペの例である。

- (24) a. 久しぶりに帰った実家で**のびのび**とくつろぐ。
b. 久しぶりに帰った実家で**のびのび**する。

- (25) a. 雅也は、誘われれば誰にでも**ほいほい**とついていく。
b. *雅也は、誘われれば誰にでも**ほいほい**する。

どちらも様態副詞のオノマトペであるはずだが、(24)、(25)の例に示されているように、動詞への品詞交替可能性はオノマトペによって異なっている。先述の「オノマトペ + だ」、「オノマトペ + の」への品詞交替可能性も含めて、田守(1991)の主張だけでは、オノマトペの品詞交替可能性をうまく捉えることができていない。また、実際に品詞交替させた例を見ても、オノマトペの品詞交替可能性とそれを決定するような共通した要素については、まったく不明瞭である。

よって、本論文では、オノマトペ表現の品詞交替の例文を観察していくことで、(26)の問題を明らかにしたい。

(26) オノマトペの品詞交替とオノマトペの機能的特徴は、まったく恣意的なものなのか。

(26)の問題を明らかにするために、1つのオノマトペに対して(27)のような4つの例文を観察する。この4つの例文は、(27)に示す通り、aの例文が副詞的に機能するオノマトペであり、その他の例がそのオノマトペを品詞交替させたものである。

- (27) a. オノマトペ副詞を含む例文
b. オノマトペ + する
c. オノマトペ + だ
d. オノマトペ + の + 名詞

(27)のような例文群を作成することによって観察したいのは、(28)の事実である。

- (28) a. (オノマトペ副詞を含む例文)
b. オノマトペは動詞になれるか
c. オノマトペはナ形容詞になれるか
d. オノマトペは修飾要素になれるか

これらの形式で観察するオノマトペについて、その関連性を考えるために、まず、aの例文での副詞用法に注目した。副詞用法をとるオノマトペは、助詞との共起によって(29)のように3種類にわけることが可能である。

- (29) a. 助詞「と」を伴うオノマトペ (オノマトペ + と)
b. 助詞「に」を伴うオノマトペ (オノマトペ + に)
c. どちらの用法も可能なオノマトペ (オノマトペ + と / オノマトペ + に)
i. 2つの**意味が同じ**オノマトペ
ii. 2つの**意味が異なる**オノマトペ

そして、そのオノマトペを、更にオノマトペそのものがもつ意味によって5種類に分けた。その5種類は、以下に示す通りである。

- (30) a. **感覚**を表わすオノマトペ
触覚や痛覚などの感覚を表現したオノマトペ
b. **音声**を表わすオノマトペ
音や声を表現したオノマトペ
c. **感情・態度**を表わすオノマトペ
感情や心理、またそれに基づく態度を表現したオノマトペ
d. **動き・動作**を表わすオノマトペ
動きや動作の様子を表現したオノマトペ
e. **状態**を表わすオノマトペ
動きや変化を伴わず、そのものの状態を表現したオノマトペ

このように例文を分けることで、(26)の問題の解明を目指す。次章では、例文の観察から導いた本論文の主張を示す。

4. 本論文の主張

本論文では、(26)の問題に対して(31)を主張する。

- (31) オノマトペの品詞交替可能性は恣意的なものではなく、副詞用法で「オノマトペ + と」、「オノマトペ + に」、あるいはその両方の形をとるかによって、それぞれ共通した品詞交替可能性を持っている。

以下では、副詞用法で「オノマトペ + と」、「オノマトペ + に」、あるいはその両方の形をとるものが、それぞれ実際にどのような品詞交替可能性を持っているかについて、本論文の主張を示す。

4.1. オノマトペ + と

「オノマトペ + と」の形をとることができ、「オノマトペ + に」の形をとることができないオノマトペの品詞交替可能性は、以下の主張に従っている。

- (32) 「オノマトペ + と」の形をとることができ、「オノマトペ + に」の形をとることができないオノマトペのうち、感覚を表わすものは、「-する」、「-だ」、「-の」に接続する全ての形が可能である。
- (33) 「オノマトペ + と」の形をとることができ、「オノマトペ + に」の形をとることができないオノマトペのうち、音声、感情・態度、動き・動作、状態を表わすものは、「-する」、「-だ」、「-の」に接続する全ての形が可能か、全ての形が不可能かのどちらかである。

以下の表は、(32)、(33)で主張している品詞交替可能性を表にしてまとめたものである。オノマトペを(30)で提示した意味分類で分け、「-する」、「-だ」、「-の」のそれぞれが品詞交替可能な場合は「○」、不可能な場合は「×」をつけた。「と／に」の欄は、オノマトペが副詞用法で、「と」と「に」のどちらを伴うかを示している。表の中には、一つの意味分類が2行にわたっているものがあるが、これはその意味分類が品詞交替において2つのパターンをとりうることを意味している。例えば、(34)の表で音声を表わすオノマトペは、「○」が3つの場合と「×」が3つの場合の2行にわたっているが、これは3つの品詞交替が全て可能である場合と3つの品詞交替全てが不可能である場合の2つのパターンがあることを意味している。

- (34) 「オノマトペ + と」に関する品詞交替可能性

	-する	-だ	-の	と／に
感覚	○	○	○	と
音声	○	○	○	と
	×	×	×	
感情・態度	○	○	○	と
	×	×	×	
動き・動作	○	○	○	と
	×	×	×	
状態	○	○	○	と
	×	×	×	

4.2. オノマトペ + に

「オノマトペ + に」の形をとることができ、「オノマトペ + と」の形をとることができないオノマトペの品詞交替可能性は、以下の主張に従っている。

- (35) 「オノマトペ + に」の形をとることができ、「オノマトペ + と」の形をとることができないオノマトペのうち、感覚を表わすものは、「-する」、「-だ」、「-の」に接続する全ての形が可能である。
- (36) 「オノマトペ + に」の形をとることができ、「オノマトペ + と」の形をとることができないオノマトペのうち、感情・態度、動き・動作を表すものは、「-する」に接続する形が不可能だが、「-だ」、「-の」に接続する形は可能である。
- (37) 「オノマトペ + に」の形をとることができ、「オノマトペ + と」の形をとることができないオノマトペのうち、状態を表わすものは、「-する」に接続する形が可能な場合でも不可能な場合でも、「-だ」、「-の」に接続する形が可能である。

以下の表は、(35)-(37)で主張している品詞交替可能性を表にしてまとめたものであり、その形式は(34)の表と同じものである。以下の表では、音声を表すオノマトペの部分に斜線がひかれているが、これは該当なしを示している。また、状態を表わすオノマトペは、「-する」だけが「○」と「×」の2行に分かれているが、これは、「-する」の品詞交替のみ、可能になる場合と不可能になる場合の2つのパターンをもつためである。

(38) 「オノマトペ + に」に関する品詞交替可能性

	-する	-だ	-の	と／に
感覚	○	○	○	に
音声	／	／	／	／
感情・態度	×	○	○	に
動き・動作	×	○	○	に
状態	○	○	○	に
	×			

4.3. オノマトペ + と／オノマトペ + に

「オノマトペ + と」と「オノマトペ + に」の両方の形をとることができ、それぞれの意味が同じであるオノマトペの品詞交替可能性は、以下の主張に従っている。

- (39) 「オノマトペ + と」と「オノマトペ + に」の両方の形をとることができ、それぞれの意味が同じであるオノマトペのうち、感覚、感情・態度、動き・動作、状態を表わすものは、「-する」、「-だ」、「-の」に接続する全ての形が可能である。

以下の表は、(39)で主張している品詞交替可能性を表にしてまとめたものであり、その形式は、先の(34)、(38)の表と同じである。

(40) 「オノマトペ + と／オノマトペ + に」に関する品詞交替可能性

	-する	-だ	-の	と／に
感覚	○	○	○	と／に
音声	／	／	／	／
感情・態度	○	○	○	と／に
動き・動作	○	○	○	と／に
状態	○	○	○	と／に

次章では、例文の観察を通して、各オノマトペがそれぞれの主張にしたがっていること、そして(31)の主張が正しいことを示していく。

5. オノマトペ + と

「オノマトペ + と」の形をとることができ、「オノマトペ + に」の形をとることができないオノマトペの品詞交替可能性は、(32)(33)の主張に従っている。

- (32) 「オノマトペ + と」の形をとることができ、「オノマトペ + に」の形をとることができないオノマトペのうち、感覚を表わすものは、「-する」、「-だ」、「-の」に接続する全ての形が可能である。
- (33) 「オノマトペ + と」の形をとることができ、「オノマトペ + に」の形をとることができないオノマトペのうち、音声、感情・態度、動き・動作、状態を表わすものは、「-する」、「-だ」、「-の」に接続する全ての形が可能か、全ての形が不可能かのどちらかである。

以下では、意味分類ごとでの観察を通して、これらの主張が成り立っていることを示す。

5.1. 感覚を表わすオノマトペ

「オノマトペ + と」の形をとることができ、「オノマトペ + に」の形をとることができないオノマトペのうち、感覚を表わすものの品詞交替可能性は、(32)の主張に従っている。

- (32) 「オノマトペ + と」の形をとることができ、「オノマトペ + に」の形をとることができないオノマトペのうち、感覚を表わすものは、「-する」、「-だ」、「-の」に接続する全ての形が可能である。

(41)-(45)は、(32)の主張の通り、「-する」、「-だ」、「-の」に接続する全ての形が可能である感覚を表すオノマトペの例文である。

- (41) a. 昨日の寒さとは打って変わって、今日は**ぼかぼか**と暖かい。
 b. 昨日の寒さとは打って変わって、今日は**ぼかぼか**する。
 c. 昨日の寒さとは打って変わって、今日は**ぼかぼか**だ。
 d. 昨日の寒さとは打って変わって、**ぼかぼか**の今日。
- (42) a. あの中料理屋は、なぜだかいつも床が**ぬるぬる**と滑る。

- b. あの中華料理屋は、なぜだかいつも床が**ぬるぬる**する。
- c. あの中華料理屋は、なぜだかいつも床が**ぬるぬる**だ。
- d. あの中華料理屋は、なぜだかいつも**ぬるぬる**の床。

- (43) a. 喫煙所の換気扇に、煙草のやにが**ねばねば**とくっついている。
 b. 喫煙所の換気扇に、煙草のやにが**ねばねば**する。
 c. 喫煙所の換気扇に、煙草のやにが**ねばねば**だ。
 d. 喫煙所の換気扇に、**ねばねば**の煙草のやに。

- (44) a. 二日酔いで頭が**がんがん**と痛む。
 b. 二日酔いで頭が**がんがん**する。
 c. 二日酔いで頭が**がんがん**だ。
 d. 二日酔いで**がんがん**の頭。

- (45) a. コンセントに触れた瞬間、指先に電流が**びりびり**と走った。
 b. コンセントに触れた瞬間、指先に電流が**びりびり**する。
 c. コンセントに触れた瞬間、指先に電流が**びりびり**だ。
 d. コンセントに触れた瞬間、指先に**びりびり**の電流。

これらの例文より、「オノマトペ + と」の形をとることができ、「オノマトペ + に」の形をとることができないオノマトペのうち、感覚を表わすものの品詞交替可能性は、実際に(32)の主張に従っていることがわかる。(46)の表は、上述のオノマトペの品詞交替可能性をまとめたものである。

(46) 感覚を表すオノマトペの品詞交替可能性

	- する	- だ	- の	と／に
ぼかぼか	○	○	○	と
ぬるぬる	○	○	○	と
ねばねば	○	○	○	と
がんがん	○	○	○	と
びりびり	○	○	○	と

(46)の表からも明らかなように、「オノマトペ + と」の形をとることができ、「オノマトペ + に」の形をとることができないオノマトペのうち、感覚を表わすものの品詞交替可能性は、(32)の主張に従い、全て可能である。また(47)は、上記以外の感覚を表すオノマトペの例であるが、実際に(47)のオノマトペに「-する」を接続させた(48)は、全て容認可能

である。

- (47) ざらざら、ちくちく、じんじん、ずきずき、べたべた、すべすべ、つるつる、ひりひり、びりびり、さらさら、かさかさ…

- (48) ざらざらする、ちくちくする、じんじんする、ずきずきする、べたべたする、すべすべする、ひりひりする、びりびりする、さらさらする、かさかさする…

これらの例も(32)の通りすべての品詞交替が可能である。

5.2. 音声を表わすオノマトペ

「オノマトペ + と」の形をとることができ、「オノマトペ + に」の形をとることができないオノマトペのうち、音声を表わすものの品詞交替可能性は、(33)の主張に従っている。

- (33) 「オノマトペ + と」の形をとることができ、「オノマトペ + に」の形をとることができないオノマトペのうち、音声、感情・態度、動き・動作、状態を表わすものは、「- する」、「- だ」、「- の」に接続する全ての形が可能か、全ての形が不可能かのどちらかである。

(49)-(52)は、(33)の主張の通り、音声を表すオノマトペが「- する」、「- だ」、「- の」の全ての形で品詞交替可能となる例である。

- (49) a. 築100年にもなる小学校なので、誰かが歩くたびに床が**ぎしぎし**ときしむ。
 b. 築100年にもなる小学校なので、誰かが歩くたびに床が**ぎしぎし**する。
 c. 築100年にもなる小学校なので、誰かが歩くたびに床が**ぎしぎし**だ。
 d. 築100年にもなる小学校なので、誰かが歩くたびに**ぎしぎし**の床。

- (50) a. たまごをゆでようと火にかけていた鍋が**ぐつぐつ**と沸騰している。
 b. たまごをゆでようと火にかけていた鍋が**ぐつぐつ**する。
 c. たまごをゆでようと火にかけていた鍋が**ぐつぐつ**だ。
 d. たまごをゆでようと火にかけていた**ぐつぐつ**の鍋。

- (51) a. 6組にはやんちゃな生徒が多く、いつも教室が**ざわざわ**と騒がしい。

- b. 6組にはやんちゃな生徒が多く、いつも教室が**ざわざわ**する³。
- c. 6組にはやんちゃな生徒が多く、いつも教室が**ざわざわ**だ。
- d. 6組にはやんちゃな生徒が多く、いつも**ざわざわ**の教室。

- (52) a. 渋谷は、いつも**がやがや**と騒がしい。
 b. 渋谷は、いつも**がやがや**する。
 c. 渋谷は、いつも**がやがや**だ。
 d. いつも**がやがや**の渋谷。

以上の例文より、「オノマトペ + と」の形をとることができ、「オノマトペ + に」の形をとることができないオノマトペのうち、音声を表わすものの品詞交替可能性は、実際に(33)の主張に従っていることがわかる。(53)の表は、上述のオノマトペをはじめとして、この種のオノマトペの品詞交替可能性をまとめたものである。

(53) 音声のオノマトペの品詞交替可能性①

	- する	- だ	- の	と／に
ぎしぎし	○	○	○	と
ぐつぐつ	○	○	○	と
ざわざわ	○	○	○	と
がやがや	○	○	○	と
くすくす	○	?	?	と

この種のオノマトペに属するものは、(53)の表の通りすべての品詞交替が可能である。

さらに、(33)の主張の通り、品詞交替がすべて不可能な例もある。(54)-(59)は、「- する」、「- だ」、「- の」に接続する全ての形が不可能である音声を表すオノマトペの例文である。

- (54) a. 往年のアイドルが結婚したと聞いて、年甲斐もなく父は**おいおい**と泣いた。
 b. *往年のアイドルが結婚したと聞いて、年甲斐もなく父は**おいおい**する。
 c. *往年のアイドルが結婚したと聞いて、年甲斐もなく父は**おいおい**だ。
 d. *往年のアイドルが結婚したと聞いて、年甲斐もなく**おいおい**の父。

³ 本論文で、動詞「- する」を接続させた形が可能であるとしているオノマトペの中には、動詞「- する」だけを接続させるよりテイル形の方がより自然に感じられるオノマトペもある。しかしながら、これらのオノマトペは「- する」単体の場合にも容認可能であるため、全て「- する」のみを接続させている。

- (55) a. 自分に都合の悪いことが起こると、いつも拓也は**ぶつぶつ**と言いつばかりしている。
 b. *自分に都合の悪いことが起こると、いつも拓也は**ぶつぶつ**する。
 c. *自分に都合の悪いことが起こると、いつも拓也は**ぶつぶつ**だ。
 d. *自分に都合の悪いことが起こると、いつも**ぶつぶつ**の拓也。

- (56) a. ガラスの靴の持ち主を探して、王子の乗った馬車が**ばかばか**とやって来た。
 b. *ガラスの靴の持ち主を探して、王子の乗った馬車が**ばかばか**する。
 c. *ガラスの靴の持ち主を探して、王子の乗った馬車が**ばかばか**だ。
 d. *ガラスの靴の持ち主を探して、**ばかばか**の王子の乗った馬車。

- (57) a. 紅葉が美しい遊歩道で、幼い子ども達が落ち葉を**かさかさ**と踏んで歩いていく。
 b. *紅葉が美しい遊歩道で、幼い子ども達が落ち葉を**かさかさ**する。
 c. *紅葉が美しい遊歩道で、幼い子ども達が落ち葉を**かさかさ**だ。
 d. *紅葉が美しい遊歩道で、幼い子ども達が**かさかさ**の落ち葉。

- (58) a. 愉快的出来事に遭遇すると、博のおじいさんは、いつも上を向いて**からから**と笑う。
 b. *愉快的出来事に遭遇すると、博のおじいさんは、いつも上を向いて**からから**する。
 c. *愉快的出来事に遭遇すると、博のおじいさんは、いつも上を向いて**からから**だ。
 d. *愉快的出来事に遭遇すると、いつも上を向いて**からから**の博のおじいさん。

- (59) a. 風邪をひいているのか、弘美が**こんこん**と咳をしている。
 b. *風邪をひいているのか、弘美が**こんこん**する。
 c. *風邪をひいているのか、弘美が**こんこん**だ。
 d. *風邪をひいているのか、**こんこん**の弘美。

(60)の表は、上述のオノマトペに加え、「- する」、「- だ」、「- の」に接続する全ての形が不可能になった音声を表すオノマトペの品詞交替可能性をまとめたものである。

(60) 音声を表すオノマトペの品詞交替可能性②

	-する	-だ	-の	と／に
おいおい	×	×	×	と
ぶつぶつ	×	×	×	と
ばかばか (馬)	×	×	×	と
かさかさ	×	×	×	と
からから (笑う)	×	×	×	と
こんこん (咳)	×	×	×	と
ことこと	×	??	??	と
ざぶざぶ	×	??	??	と
からから (鳴る)	??	×	×	と
かりかり	??	×	×	と

(60)の表の通り、この種のオノマトペに属するものは、すべての品詞交替が不可能である。このように、「オノマトペ + と」の形をとることができ、「オノマトペ + に」の形をとることができないオノマトペのうち、音声を表わすものの品詞交替可能性は、(33)の主張に従っている。

5.3. 感情・態度を表わすオノマトペ

「オノマトペ + と」の形をとることができ、「オノマトペ + に」の形をとることができないオノマトペのうち、感情・態度を表わすものにも(33)が成り立っている。

(33) 「オノマトペ + と」の形をとることができ、「オノマトペ + に」の形をとることができないオノマトペのうち、音声、感情・態度、動き・動作、状態を表わすものは、「-する」、「-だ」、「-の」に接続する全ての形が可能か、全ての形が不可能かのどちらかである。

(61)-(65)は、実際に(33)に従っている感情・態度を表すオノマトペの例文であり、「-する」、「-だ」、「-の」に接続する全ての品詞交替が可能である。

- (61) a. かつて恋人同士だった由美と健との仲は、3年たった今でも**ぎすぎす**とぎこちない。
b. かつて恋人同士だった由美と健との仲は、3年たった今でも**ぎすぎす**する。
c. かつて恋人同士だった由美と健との仲は、3年たった今でも**ぎすぎす**だ。
d. 3年たった今でも**ぎすぎす**のかつて恋人同士だった由美と健との仲。

- (62) a. あまりに自分の思惑通り事が進むので、平山は**にやにや**と笑った。
b. あまりに自分の思惑通り事が進むので、平山は**にやにや**する。

- c. あまりに自分の思惑通り事が進むので、平山は**にやにや**だ。
d. あまりに自分の思惑通り事が進むので、**にやにや**の平山。

- (63) a. 結婚記念日にも関わらず父の帰りが遅いので、母は**いらいら**と落ち着かない。
b. 結婚記念日にも関わらず父の帰りが遅いので、母は**いらいら**する。
c. 結婚記念日にも関わらず父の帰りが遅いので、母は**いらいら**だ。
d. 結婚記念日にも関わらず父の帰りが遅いので、**いらいら**の母。

- (64) a. 注射されている時でも、絵美は**にこにこ**と笑っている。
b. 注射されている時でも、絵美は**にこにこ**する。
c. 注射されている時でも、絵美は**にこにこ**だ。
d. 注射されている時でも、**にこにこ**の絵美。

- (65) a. 亮二がくだらない嘘をついたので、瑞樹は**ぶんぶん**と怒っている。
b. 亮二がくだらない嘘をついたので、瑞樹は**ぶんぶん**する。
c. 亮二がくだらない嘘をついたので、瑞樹は**ぶんぶん**だ。
d. 亮二がくだらない嘘をついたので、**ぶんぶん**の瑞樹。

以上の例文より、「オノマトペ + と」の形をとることができ、「オノマトペ + に」の形をとることができないオノマトペのうち、感情・態度を表わすものの品詞交替可能性は、実際に(33)の主張に従っている。(66)の表では、上で挙げたオノマトペの例に加え、「-する」、「-だ」、「-の」に接続する形が全て可能である感情・態度を表すオノマトペの品詞交替可能性をまとめている。

(66) 感情・態度を表すオノマトペの品詞交替可能性①

	-する	-だ	-の	と／に
ぎすぎす	○	○	○	と
にやにや	○	○	○	と
いらいら	○	○	○	と
にこにこ	○	○	○	と
ぶんぶん	○	○	○	と
どきどき	○	○	○	と
めそめそ	○	○	?	と
がみがみ	○	?	○	と
いそいそ	○	?	○	と
しくしく	○	?	○	と
くよくよ	○	?	?	と

(66)の表の通り、この種のオノマトペに属するものは、すべての品詞交替が可能であり、やはり(33)に従っている。

さらに、(33)の主張の通り、「-する」、「-だ」、「-の」に接続する形がすべて不可能な例もある。(67)-(70)のオノマトペは、すべての品詞交替が不可能である。

- (67) a. 校舎の窓ガラスを割ってしまったことを、武は**おずおず**と打ち明けた。
 b. *校舎の窓ガラスを割ってしまったことを、武は**おずおず**する。
 c. *校舎の窓ガラスを割ってしまったことを、武は**おずおず**だ。
 d. *校舎の窓ガラスを割ってしまったことを、**おずおず**の武。
- (68) a. 母に一喝されて、恭介は**すごすご**と引き下がった。
 b. *母に一喝されて、恭介は**すごすご**する。
 c. *母に一喝されて、恭介は**すごすご**だ。
 d. *母に一喝されて、**すごすご**の恭介。
- (69) a. 全てが丸くおさまった今頃になって、浩二は**のこのこ**とやって来た。
 b. *全てが丸くおさまった今頃になって、浩二は**のこのこ**する。
 c. *全てが丸くおさまった今頃になって、浩二は**のこのこ**だ。
 d. *全てが丸くおさまった今頃になって、**のこのこ**の浩二。
- (70) a. 「俺は無実だ。犯人は別にいる」。斎藤は**ぬけぬけ**とうそぶいた。
 b. *「俺は無実だ。犯人は別にいる」。斎藤は**ぬけぬけ**する。
 c. *「俺は無実だ。犯人は別にいる」。斎藤は**ぬけぬけ**だ。

d. *「俺は無実だ。犯人は別にいる」。**ぬけぬけ**の斎藤。

(71)の表は、「オノマトペ + と」の形をとることができ、「オノマトペ + に」の形をとることができないオノマトペのうち、感情・態度を表わすものの品詞交替可能性を示したものである。上述の例の通り、すべての品詞交替が不可能である。

(71) 感情・態度を表すオノマトペの品詞交替可能性②

	-する	-だ	-の	と／に
おずおず	×	×	×	と
すごすご	×	×	×	と
のこのこ	×	×	×	と
ぬけぬけ	×	×	×	と
ほいほい	×	×	×	と
らんらん	×	×	×	と

この種のオノマトペに属するものは、(71)の表の通りすべての品詞交替が不可能である。したがって、(66)、(71)の表からも明らかのように、「オノマトペ + と」の形をとることができ、「オノマトペ + に」の形をとることができないオノマトペのうち、感情・態度を表わすものの品詞交替可能性は、(33)の主張に従っているといえる。

5.4. 動き・動作を表わすオノマトペ

「オノマトペ + と」の形をとることができ、「オノマトペ + に」の形をとることができないオノマトペのうち、動き・動作を表わすものの品詞交替可能性は、次の主張に従っている。

(33) 「オノマトペ + と」の形をとることができ、「オノマトペ + に」の形をとることができないオノマトペのうち、音声、感情・態度、動き・動作、状態を表わすものは、「-する」、「-だ」、「-の」に接続する全ての形が可能か、全ての形が不可能かのどちらかである。

(72)-(76)は、「-する」、「-だ」、「-の」に接続する全ての形が可能であるオノマトペの例文である。

- (72) a. ジョージのキザな一言に、取り巻きの女子軍団は**くらくら**と倒れていく。
 b. ジョージのキザな一言に、取り巻きの女子軍団は**くらくら**する。
 c. ジョージのキザな一言に、取り巻きの女子軍団は**くらくら**だ。

d. ジョージのキザな一言に、**くらくら**の取り巻きの女子軍団。

- (73) a. 酔っ払った優作が**よろよろ**と歩き出した。
 b. 酔っ払った優作が**よろよろ**する。
 c. 酔っ払った優作が**よろよろ**だ。
 d. 酔っ払った**よろよろ**の優作。

- (74) a. 美少女の転校生がやってきたという噂を聞きつけ、3年2組の教室の前には人が**うじゃうじゃ**と集まっている。
 b. 美少女の転校生がやってきたという噂を聞きつけ、3年2組の教室の前には人が**うじゃうじゃ**する。
 c. 美少女の転校生がやってきたという噂を聞きつけ、3年2組の教室の前には人が**うじゃうじゃ**だ。
 d. 美少女の転校生がやってきたという噂を聞きつけ、3年2組の教室の前には**うじゃうじゃ**の人。

- (75) a. 貧血で倒れていた花子が**ふらふら**と起き上がった。
 b. 貧血で倒れていた花子が**ふらふら**する。
 c. 貧血で倒れていた花子が**ふらふら**だ。
 d. 貧血で倒れていた**ふらふら**の花子。

- (76) a. あまりの強風で、壊れた扉が**ばかばか**と開いたり閉じたりしている。
 b. あまりの強風で、壊れた扉が**ばかばか**する。
 c. あまりの強風で、壊れた扉が**ばかばか**だ。
 d. あまりの強風で、**ばかばか**の壊れた扉。

このように、「オノマトペ + と」の形をとることができ、「オノマトペ + に」の形をとることができないオノマトペのうち、動き・動作を表わすものの品詞交替可能性において、実際に(33)が成り立っている。(77)に、上述のオノマトペをはじめとして、「- する」、「- だ」、「- の」の品詞交替が可能になった動き・動作を表すオノマトペの品詞交替可能性を示す。

(77) 動き・動作を表すオノマトペの品詞交替可能性①

	- する	- だ	- の	と/に
くらくら	○	○	○	と
よろよろ	○	○	○	と
うじゃうじゃ	○	○	○	と
がつがつ	○	○	○	と
のろのろ	○	○	○	と
ふらふら	○	○	○	と
ばかばか (扉)	○	○	○	と
ずるずる	?	○	?	と
きよろきよろ	○	?	?	と
ばらばら	○	?	?	と
ひらひら	○	?	?	と

この種のオノマトペに属するものは、(77)の表の通り、すべての品詞交替が可能あり、やはり(33)に従っている。

さらに、(33)の主張の通り、すべての品詞交替が不可能になる例もある。(78)-(82)は、「- する」、「- だ」、「- の」に接続する全ての形が不可能である動き・動作を表すオノマトペの例文である。

- (78) a. 理沙の言葉は、浩二の心に**ぐさぐさ**と突き刺さった。
 b. *理沙の言葉は、浩二の心に**ぐさぐさ**する。
 c. *理沙の言葉は、浩二の心に**ぐさぐさ**だ。
 d. *浩二の心に**ぐさぐさ**の理沙の言葉。

- (79) a. 光雄は、由梨絵の似顔絵を**さらさら**と描いていく。
 b. *光雄は、由梨絵の似顔絵を**さらさら**する。
 c. *光雄は、由梨絵の似顔絵を**さらさら**だ。
 d. *光雄は、**さらさら**の由梨絵の似顔絵。

- (80) a. 恐怖で尻込みする武雄の腕を、直子は**ぐいぐい**と引っ張っていく。
 b. *恐怖で尻込みする武雄の腕を、直子は**ぐいぐい**する。
 c. *恐怖で尻込みする武雄の腕を、直子は**ぐいぐい**だ。
 d. *恐怖で尻込みする武雄の腕を、**ぐいぐい**の直子。

- (81) a. 陸での足取りはおぼつかないが、いざ水に入ると、ペンギンは見違えるように**すいすい**と泳ぐ。

- b. *陸での足取りはおぼつかないが、いざ水に入ると、ペンギンは見違えるように**すいすい**する。
- c. *陸での足取りはおぼつかないが、いざ水に入ると、ペンギンは見違えるように**すいすい**だ。
- d. *陸での足取りはおぼつかないが、いざ水に入ると、見違えるように**すいすい**のペンギン。

- (82) a. 時雄は、ビールを水のように**がぶがぶ**と飲む。
 b. *時雄は、ビールを水のように**がぶがぶ**する。
 c. *時雄は、ビールを水のように**がぶがぶ**だ。
 d. *時雄は、水のように**がぶがぶ**のビール。

(83)に、上述のオノマトベと同様に、動き・動作を表すオノマトベのうち、全ての品詞交替が不可能な例を示す。

(83) 動き・動作を表すオノマトベの品詞交替可能性②

	-する	-だ	-の	と／に
ぐさぐさ	×	×	×	と
さらさら (描く)	×	×	×	と
ぐいぐい	×	×	×	と
すいすい	×	×	×	と
がぶがぶ	×	×	×	と
さらさら (なびく)	×	??	??	と
ころころ	??	??	??	と

この種のオノマトベに属するものは、(83)の表の通りすべての品詞交替が不可能である。したがって、(77)、(83)の表からも明らかなように、「オノマトベ + と」の形をとることができ、「オノマトベ + に」の形をとることができないオノマトベのうち、動き・動作を表すものの品詞交替可能性は、(33)の主張に従っているといえる。

5.5. 状態を表わすオノマトベ

(33)の主張は、「オノマトベ + と」の形をとることができ、「オノマトベ + に」の形をとることができないオノマトベのうち、状態を表わすものにおいても成り立っている。

- (33) 「オノマトベ + と」の形をとることができ、「オノマトベ + に」の形をとることができないオノマトベのうち、音声・感情・態度、動き・動作、状態を表わすものは、「-する」、「-だ」、「-の」に接続する全ての形が可能か、全ての形が不

可能かのどちらかである。

(84)-(88)は、「-する」、「-だ」、「-の」に接続する全ての形が可能であるオノマトベの例文である。

- (84) a. 休日ともなると、健人は一日中家で**だらだら**と過ごしている。
 b. 休日ともなると、健人は一日中家で**だらだら**する。
 c. 休日ともなると、健人は一日中家で**だらだら**だ。
 d. 休日ともなると、一日中家で**だらだら**の健人。

- (85) a. 夏の日差しが**ぎらぎら**と照り付ける。
 b. 夏の日差しが**ぎらぎら**する。
 c. 夏の日差しが**ぎらぎら**だ。
 d. **ぎらぎら**の夏の日射し。

- (86) a. 毎朝寒さと格闘しながら起床する人間たちを尻目に、こたつで猫は**ぬくぬく**と過ごしている。
 b. 毎朝寒さと格闘しながら起床する人間たちを尻目に、こたつで猫は**ぬくぬく**する。
 c. 毎朝寒さと格闘しながら起床する人間たちを尻目に、こたつで猫は**ぬくぬく**だ。
 d. 毎朝寒さと格闘しながら起床する人間たちを尻目に、こたつで**ぬくぬく**の猫。

- (87) a. 直線道路から一転、海岸沿いは道が**うねうね**と続いていく。
 b. 直線道路から一転、海岸沿いは道が**うねうね**する。
 c. 直線道路から一転、海岸沿いは道が**うねうね**だ。
 d. 直線道路から一転、海岸沿いは**うねうね**の道。

- (88) a. 盲導犬のドキュメンタリーを見て、愛犬家の佐藤さんの目は**うるうる**としてきた。
 b. 盲導犬のドキュメンタリーを見て、愛犬家の佐藤さんの目は**うるうる**する。
 c. 盲導犬のドキュメンタリーを見て、愛犬家の佐藤さんの目は**うるうる**だ。
 d. 盲導犬のドキュメンタリーを見て、愛犬家の佐藤さんの**うるうる**の目。

以上の例文より、「オノマトベ + と」の形をとることができ、「オノマトベ + に」の形をとることができないオノマトベのうち、状態を表わすものの品詞交替において、実際に(33)の主張が成り立っていることがわかる。(89)は、「-する」、「-だ」、「-の」に接続する全ての形が可能になった状態を表すオノマトベの品詞交替可能性を示した表である。

(89) 状態を表すオノマトペの品詞交替可能性①

	-する	-だ	-の	と／に
だらだら	○	○	○	と
ぎらぎら	○	○	○	と
ぬくぬく	○	○	○	と
うねうね	○	○	○	と
うるうる	○	○	○	と
ふわふわ	○	?	○	と
すやすや	?	○	○	と
のびのび (くつろぐ)	○	?	?	と

この種のオノマトペに属するものは、(89)の表の通りすべての品詞交替が可能であり、やはり(33)に従っている。

さらに、(33)の主張の通り、品詞交替がすべて不可能な例もある。(90)-(92)は、「-する」、「-だ」、「-の」に接続する全ての形が不可能である状態を表すオノマトペの例文である。

- (90) a. 遠足の注意事項について、平田先生は同じことを**くどくど**と繰り返した。
b. *遠足の注意事項について、平田先生は同じことを**くどくど**する。
c. *遠足の注意事項について、平田先生は同じことを**くどくど**だ。
d. *遠足の注意事項について、同じことを**くどくど**の平田先生。
- (91) a. 両親こそいなかったものの、優しい祖父母に見守られ、愛子は**すくすく**と育っていた。
b. *両親こそいなかったものの、優しい祖父母に見守られ、愛子は**すくすく**する。
c. *両親こそいなかったものの、優しい祖父母に見守られ、愛子は**すくすく**だ。
d. *両親こそいなかったものの、優しい祖父母に見守られ、**すくすく**の愛子。
- (92) a. 月明かりの下、雪が**こんこん**と降り積もっていく。
b. *月明かりの下、雪が**こんこん**する。
c. *月明かりの下、雪が**こんこん**だ。
d. *月明かりの下、**こんこん**の雪。

以下の表は、「オノマトペ + と」の形をとることができ、「オノマトペ + に」の形をとることができないオノマトペのうち、状態を表わすものとして、「-する」、「-だ」、「-の」に接続する全ての形が不可能になったオノマトペの品詞交替可能性をまとめたも

のである。

(93) 状態を表すオノマトペの品詞交替可能性②

	-する	-だ	-の	と／に
くどくど	×	×	×	と
すくすく	×	×	×	と
こんこん	×	×	×	と
こつこつ	×	×	??	と
ねちねち	×	??	??	と
はきはき	×	??	??	と

この種のオノマトペに属するものは、(93)の表の通りすべての品詞交替が不可能である。したがって、(89)、(93)の表からも明らかなように、「オノマトペ + と」の形をとることができ、「オノマトペ + に」の形をとることができないオノマトペのうち、状態を表わすものの品詞交替可能性は、(33)の主張に従っているといえる。

6. オノマトペ + に

「オノマトペ + に」の形をとることができ、「オノマトペ + と」の形をとることができないオノマトペの品詞交替可能性は、(35)(36)(37)の主張に従っている。

- (35) 「オノマトペ + に」の形をとることができ、「オノマトペ + と」の形をとることができないオノマトペのうち、感覚を表わすものは、「-する」、「-だ」、「-の」に接続する全ての形が可能である。
- (36) 「オノマトペ + に」の形をとることができ、「オノマトペ + と」の形をとることができないオノマトペのうち、感情・態度を表わすものと動き・動作を表すものは、「-する」に接続する形が不可能だが、「-だ」、「-の」に接続する形は可能である。
- (37) 「オノマトペ + に」の形をとることができ、「オノマトペ + と」の形をとることができないオノマトペのうち、状態を表わすものは、「-する」に接続する形が可能な場合でも不可能な場合でも、「-だ」、「-の」に接続する形が可能である。

以下では、(35)-(37)が成り立っていることを示す。

6.1. 感覚を表わすオノマトペ

「オノマトペ + に」の形をとることができ、「オノマトペ + と」の形をとることができないオノマトペのうち、感覚を表わすものの品詞交替可能性は、(35)の主張に従っている。

- (35) 「オノマトペ + に」の形をとることができ、「オノマトペ + と」の形をとることができないオノマトペのうち、感覚を表わすものは、「-する」、「-だ」、「-の」に接続する全ての形が可能である。

(94)-(97)は、「-する」、「-だ」、「-の」に接続する全ての形が可能であるオノマトペを示した例である。

- (94) a. シャンプーの補充をめんどくさがって石鹸で全身を洗っていたら、髪が**ごわごわ**になってしまった。

- b. シャンプーの補充をめんどくさがって石鹸で全身を洗っていたら、髪が**ごわごわ**する。
 c. シャンプーの補充をめんどくさがって石鹸で全身を洗っていたら、髪が**ごわごわ**だ。
 d. シャンプーの補充をめんどくさがって石鹸で全身を洗っていたら、**ごわごわ**の髪。

- (95) a. 話題の無添加石鹸で洗顔した効果なのか、喜美子の肌は**すべすべ**に若返った。
 b. 話題の無添加石鹸で洗顔した効果なのか、喜美子の肌は**すべすべ**する。
 c. 話題の無添加石鹸で洗顔した効果なのか、喜美子の肌は**すべすべ**だ。
 d. 話題の無添加石鹸で洗顔した効果なのか、**すべすべ**の喜美子の肌。
- (96) a. 急な雨に降られて、服が**びちょびちょ**に濡れてしまった。
 b. 急な雨に降られて、服が**びちょびちょ**する。
 c. 急な雨に降られて、服が**びちょびちょ**だ。
 d. 急な雨に降られて、**びちょびちょ**の服。
- (97) a. お坊さんの頭は、**つるつる**に剃られている。
 b. お坊さんの頭は、**つるつる**する。
 c. お坊さんの頭は、**つるつる**だ。
 d. **つるつる**のお坊さんの頭。

以上の例文より、「オノマトペ + に」の形をとることができ、「オノマトペ + と」の形をとることができないオノマトペのうち、感覚を表わすものの品詞交替可能性は、実際に(35)の主張に従っていることがわかる。(98)の表は、これらのオノマトペが、「-する」、「-だ」、「-の」全ての品詞交替が可能であることを示している。

(98) 感覚を表すオノマトペの品詞交替可能性

	-する	-だ	-の	と／に
ごわごわ	○	○	○	に
すべすべ	○	○	○	に
びちょびちょ	○	○	○	に
つるつる	○	○	○	に
からから	?	○	○	に
さらさら	?	○	○	に

(94)-(97)以外のオノマトペも、(98)の表の通りすべての品詞交替が可能であり、やはり(35)が成り立っている。

6.2. 音声を表わすオノマトペ

「オノマトペ + に」の形をとることができ、「オノマトペ + と」の形をとることができないオノマトペのうち、音声を表すものは、本論文では該当なしとした。これは、小野(2007)で「音」を表すオノマトペとされているものには、「オノマトペ + に」の形式が可能な例は存在していなかったためである。この事実は、オノマトペを網羅的に観察した結果ではないが、音声を表すオノマトペと助詞「に」との共起に何らかの制限が存在していることを示唆している。

6.3. 感情・態度を表わすオノマトペ

「オノマトペ + に」の形をとることができ、「オノマトペ + と」の形をとることができないオノマトペのうち、感情・態度を表わすものの品詞交替可能性は、(36)の主張に従っている。

(36) 「オノマトペ + に」の形をとることができ、「オノマトペ + と」の形をとることができないオノマトペのうち、感情・態度、動き・動作を表すものは、「- する」に接続する形が不可能だが、「- だ」、「- の」に接続する形は可能である。

(99)(100)のオノマトペは、「- する」に接続する形が不可能だが、「- だ」、「- の」に接続する形は可能である。

- (99) a. 裕也の浮気に、時枝はこれまでにないくらい**かんかん**に怒っている。
 b. *裕也の浮気に、時枝これまでにないくらい**かんかん**する。
 c. 裕也の浮気に、時枝はこれまでにないくらい**かんかん**だ。
 d. 裕也の浮気に、これまでにないくらい**かんかん**の時枝。
- (100) a. セクシーなキャサリンの仕草に、ピーターはたちまち**めろめろ**になってしまった。
 b. *セクシーなキャサリンの仕草に、ピーターはたちまち**めろめろ**する。
 c. セクシーなキャサリンの仕草に、ピーターはたちまち**めろめろ**だ。
 d. セクシーなキャサリンの仕草に、たちまち**めろめろ**のピーター。

以上の例文より、「オノマトペ + に」の形をとることができ、「オノマトペ + と」の形をとることができないオノマトペのうち、感情・態度を表わすものの品詞交替可能性が、実際に(36)の主張に従っていることがわかる。(101)の表は、上述のオノマトペの品詞交替可能性をまとめたものである。

(101) 感情・態度を表すオノマトペの品詞交替可能性

	- する	- だ	- の	と／に
かんかん	×	○	○	に
めろめろ	×	○	○	に

(101)の表の通り、「オノマトペ + に」の形をとることができ、「オノマトペ + と」の形をとることができないオノマトペのうち、感情・態度を表わすものの品詞交替可能性は、(36)の主張に従っている。

これらの例の通り、感情・態度を表すオノマトペそのものは、「オノマトペ + に」の形式が可能であるが、「オノマトペ + に」の形式が可能な例の多くは、「オノマトペ + に」の形式に加え、「オノマトペ + と」の形式も可能である。したがって、どちらの形式も可能なオノマトペは、本節で取り上げている「オノマトペ + に」の形式のみが可能なオノマトペとは異なるものであると考えたい。事実、「オノマトペ + と」の形式が不可能である上述のオノマトペはすべて(36)に従っており、両方の形式が可能なオノマトペは(39)に従っているため、これらのオノマトペは区別すべきものである。

6.4. 動き・動作を表わすオノマトペ

「オノマトペ + に」の形をとることができ、「オノマトペ + と」の形をとることができないオノマトペのうち、動き・動作を表わすものの品詞交替可能性も、(36)の主張に従っている。

(36) 「オノマトペ + に」の形をとることができ、「オノマトペ + と」の形をとることができないオノマトペのうち、感情・態度、動き・動作を表すものは、「- する」に接続する形が不可能だが、「- だ」、「- の」に接続する形は可能である。

(102)-(104)は、この種のオノマトペのうち、「- する」に接続する形が不可能だが、「- だ」、「- の」に接続する形が可能であるものの例文である。

- (102) a. 危なっかしい手つきだと思ったら、やっぱり折り紙が**ぎざぎざ**に切られてしまっている。
 b. *危なっかしい手つきだと思ったら、やっぱり折り紙が**ぎざぎざ**する。
 c. 危なっかしい手つきだと思ったら、やっぱり折り紙が**ぎざぎざ**だ。
 d. 危なっかしい手つきだと思ったら、やっぱり**ぎざぎざ**の折り紙。

- (103) a. 何者かによって、カーテンが**ずたずた**に切り裂かれている。
 b. *何者かによって、カーテンが**ずたずた**する。
 c. 何者かによって、カーテンが**ずたずた**だ。
 d. 何者かによって、**ずたずた**のカーテン。

- (104) a. 弘樹を怒らせたせいで、勇人が**ぼこぼこ**に殴られた。
 b. *弘樹を怒らせたせいで、勇人が**ぼこぼこ**する。
 c. 弘樹を怒らせたせいで、勇人を**ぼこぼこ**だ。
 d. 弘樹を怒らせたせいで、**ぼこぼこ**の勇人。

以上の例文より、「オノマトペ + に」の形をとることができ、「オノマトペ + と」の形をとることができないオノマトペのうち、動き・動作を表わすオノマトペにおいて、実際に(36)が成り立っていることがわかる。次の表は、上述のオノマトペの品詞交替可能性をまとめたものである。

(105) 動き・動作を表すオノマトペの品詞交替可能性

	-する	-だ	-の	と／に
ぎざぎざ	×	○	○	に
ずたずた	×	○	○	に
ぼこぼこ	×	○	○	に

動き・動作を表すオノマトペそのものは、「オノマトペ + に」の形式が可能である。しかしながら、これらの例の多くは、「オノマトペ + に」の形式に加え、「オノマトペ + と」の形式も可能であり、本節で取り上げているオノマトペに属するものではない。そして、「オノマトペ + に」の形をとるオノマトペというグループの中で見ると、動き・動作を表すオノマトペの品詞交替可能性は共通しており、本論文の主張に従っているため、これらは2種類のオノマトペとして区別すべきである。

6.5. 状態を表わすオノマトペ

「オノマトペ + に」の形をとることができ、「オノマトペ + と」の形をとることができないオノマトペのうち、状態を表わすものの品詞交替可能性は、次の主張に従っている。

- (37) 「オノマトペ + に」の形をとることができ、「オノマトペ + と」の形をとることができないオノマトペのうち、状態を表わすものは、「-する」に接続する形が可能な場合でも不可能な場合でも、「-だ」、「-の」に接続する形が可能である。

(106)-(110)は、(37)の主張の通り、「-する」、「-だ」、「-の」に接続する全ての形が可能なオノマトペの例文である。

- (106) a. ビールの飲み過ぎで、腹が**たぶたぶ**に膨れる。
 b. ビールの飲み過ぎで、腹が**たぶたぶ**する。
 c. ビールの飲み過ぎで、腹が**たぶたぶ**だ。
 d. ビールの飲み過ぎで、**たぶたぶ**の腹。

- (107) a. この温泉は美肌効果があることで非常に有名だが、確かに傍目から見ても、湯上がりの肌は**つやつや**に光っている。
 b. この温泉は美肌効果があることで非常に有名だが、確かに傍目から見ても、湯上がりの肌は**つやつや**する。
 c. この温泉は美肌効果があることで非常に有名だが、確かに傍目から見ても、湯上がりの肌は**つやつや**だ。
 d. この温泉は美肌効果があることで非常に有名だが、確かに傍目から見ても、**つやつや**の湯上がりの肌。

- (108) a. 日々の不摂生のせいで、下っ腹が**ぶよぶよ**にたるんでしまった。
 b. 日々の不摂生のせいで、下っ腹が**ぶよぶよ**する。
 c. 日々の不摂生のせいで、下っ腹が**ぶよぶよ**だ。
 d. 日々の不摂生のせいで、**ぶよぶよ**の下っ腹。

- (109) a. バターを多めに入れてあげることで、クッキーは**さくさく**に焼きあがる。
 b. バターを多めに入れてあげることで、クッキーは**さくさく**する。
 c. バターを多めに入れてあげることで、クッキーは**さくさく**だ。
 d. バターを多めに入れてあげることで、**さくさく**のクッキー。

- (110) a. スポンジケーキが**ふわふわ**に焼けた。
 b. スポンジケーキが**ふわふわ**する。
 c. スポンジケーキが**ふわふわ**だ。
 d. **ふわふわ**のスポンジケーキ。

以上の例文より、「オノマトペ + に」の形をとることができ、「オノマトペ + と」の形をとることができないオノマトペのうち、感覚を表わすものの品詞交替可能性には、実際に(37)の主張が成り立っていることがわかる。(111)の表は、上述のオノマトペをはじめと

して、状態を表すオノマトペの品詞交替可能性を表したものである。

(111) 状態を表すオノマトペの品詞交替可能性①

	-する	-だ	-の	と／に
たぶたぶ	○	○	○	に
つやつや	○	○	○	に
ぶよぶよ	○	○	○	に
さくさく	○	○	○	に
ふわふわ	○	○	○	に
ばらばら	○	?	○	に
かりかり	?	○	○	に

(111)の表の通り、これらのオノマトペは、すべての品詞交替が可能である。

さらに(37)の主張の通り、「-する」に接続する形が不可能だが、「-だ」、「-の」に接続する形は可能な例もある。(112)-(115)はそれらを示した例である。

(112) a. 信頼していた仲間に裏切られて、照実の心は**ぼろぼろ**に傷ついていた。

- b. *信頼していた仲間に裏切られて、照実の心は**ぼろぼろ**する。
- c. 信頼していた仲間に裏切られて、照実の心は**ぼろぼろ**だ。
- d. 信頼していた仲間に裏切られて、**ぼろぼろ**の照実の心。

(113) a. 初めての大きな舞台で、久信は**がちがち**に緊張している。

- b. *初めての大きな舞台で、久信は**がちがち**する。
- c. 初めての大きな舞台で、久信は**がちがち**だ。
- d. 初めての大きな舞台で、**がちがち**の久信。

(114) a. 連日の残業で、秀樹は**くたくた**に疲れていた。

- b. *連日の残業で、秀樹は**くたくた**する。
- c. 連日の残業で、秀樹は**くたくた**だ。
- d. 連日の残業で、**くたくた**の秀樹。

(115) a. 冬になると、裏山の池は**かちかち**に凍ってしまう。

- b. *冬になると、裏山の池は**かちかち**する。
- c. 冬になると、裏山の池は**かちかち**だ。
- d. 冬になると、**かちかち**の裏山の池。

(116)の表は、これらのオノマトペの品詞交替可能性をまとめたものである。

(116) 状態を表すオノマトペの品詞交替可能性②

	-する	-だ	-の	と／に
ぼろぼろ	×	○	○	に
がちがち	×	○	○	に
くたくた	×	○	○	に
かちかち	×	○	○	に
きんきん	×	?	?	に
ころころ	×	?	?	に

この種のオノマトペに属するものは、(116)の表に示されているように、「-する」に接続する形は不可能だが、「-だ」、「-の」に接続する形は可能であり、やはり(37)の主張の通りである。したがって、(111)、(116)の表からも明らかなように、「オノマトペ + に」の形をとることができ、「オノマトペ + と」の形をとることができないオノマトペのうち、状態を表わすものの品詞交替可能性は、(37)の主張に従っている。

7. オノマトペ + に / オノマトペ + と

7.1. 意味が同じオノマトペ

「オノマトペ + と」と「オノマトペ + に」の両方の形をとることができ、それぞれの意味が同じであるオノマトペの品詞交替可能性は、(39)の主張に従っている。

- (39) 「オノマトペ + と」と「オノマトペ + に」の両方の形をとることができ、それぞれの意味が同じであるオノマトペのうち、感覚、感情・態度、動き・動作、状態を表すものは、「-する」、「-だ」、「-の」に接続する全ての形が可能である。

以下では、(39)について意味分類ごとに見ていく。

7.1.1. 感覚を表すオノマトペ

「オノマトペ + と」と「オノマトペ + に」の両方の形をとることができ、それぞれの意味が同じであるオノマトペのうち、感覚を表わすものの品詞交替可能性は、(39)の主張に従っている。

- (39) 「オノマトペ + と」と「オノマトペ + に」の両方の形をとることができ、それぞれの意味が同じであるオノマトペのうち、感覚を表わすもの、感情・態度を表わすもの、動き・動作を表すもの、状態を表わすものは、「-する」、「-だ」、「-の」に接続する全ての形が可能である。

感覚を表すオノマトペの例文である(117)-(124)は、実際に(39)の通り、「-する」、「-だ」、「-の」のすべての品詞交替が可能である。

- (117) a. 冬場の水仕事で、どうしても手が**かさかさ**と荒れてしまう。
b. 冬場の水仕事で、どうしても手が**かさかさ**する。
c. 冬場の水仕事で、どうしても手が**かさかさ**だ。
d. 冬場の水仕事で、どうしても**かさかさ**の手。
- (118) a. 冬場の水仕事で、どうしても手が**かさかさ**に荒れてしまう。
b. 冬場の水仕事で、どうしても手が**かさかさ**する。
c. 冬場の水仕事で、どうしても手が**かさかさ**だ。
d. 冬場の水仕事で、どうしても**かさかさ**の手。

- (119) a. 袋から取り出したまま放置していたためか、パンが**ばさばさ**と乾燥してしまっていた。
b. 袋から取り出したまま放置していたためか、パンが**ばさばさ**する。
c. 袋から取り出したまま放置していたためか、パンが**ばさばさ**だ。
d. 袋から取り出したまま放置していたためか、**ばさばさ**のパン。
- (120) a. 袋から取り出したまま放置していたためか、パンが**ばさばさ**に乾燥してしまっていた。
b. 袋から取り出したまま放置していたためか、パンが**ばさばさ**する。
c. 袋から取り出したまま放置していたためか、パンが**ばさばさ**だ。
d. 袋から取り出したまま放置していたためか、**ばさばさ**のパン。
- (121) a. 油で、手が**べたべた**と汚れる。
b. 油で、手が**べたべた**する。
c. 油で、手が**べたべた**だ。
d. 油で、**べたべた**の手。
- (122) a. 油で、手が**べたべた**に汚れる。
b. 油で、手が**べたべた**する。
c. 油で、手が**べたべた**だ。
d. 油で、**べたべた**の手。
- (123) a. 丁寧に泡だてた生クリームを使ったからか、スポンジケーキが**ふかふか**と柔らかい。
b. 丁寧に泡だてた生クリームを使ったからか、スポンジケーキが**ふかふか**する。
c. 丁寧に泡だてた生クリームを使ったからか、スポンジケーキが**ふかふか**だ。
d. 丁寧に泡だてた生クリームを使ったからか、**ふかふか**のスポンジケーキ。
- (124) a. 丁寧に泡だてた生クリームを使ったからか、スポンジケーキが**ふかふか**に焼けている。
b. 丁寧に泡だてた生クリームを使ったからか、スポンジケーキが**ふかふか**する。
c. 丁寧に泡だてた生クリームを使ったからか、スポンジケーキが**ふかふか**だ。
d. 丁寧に泡だてた生クリームを使ったからか、**ふかふか**のスポンジケーキ。

以上の例文より、「オノマトペ + と」と「オノマトペ + に」の両方の形をとることがで

き、それぞれの意味が同じであるオノマトペのうち、感覚を表わすものの品詞交替可能性は、実際に(39)の主張に従っていることがわかる。(125)の表は、このオノマトペの品詞交替可能性をまとめたものである。

(125) 感覚を表すオノマトペの品詞交替可能性

	-する	-だ	-の	と／に
かさかさ	○	○	○	と／に
ばさばさ	○	○	○	と／に
べたべた	○	○	○	と／に
ふかふか	○	○	○	と／に
くたくた	?	○	○	と／に

このように、「オノマトペ + と」と「オノマトペ + に」の両方の形をとることができ、それぞれの意味が同じオノマトペのうち、感覚を表わすものの品詞交替可能性は、実際に(39)の主張に従っているといえる。

7.1.2. 音声を表すオノマトペ

小野(2007)では、「音」を表すオノマトペとされているものには、「オノマトペ + に」の形式が可能な例は存在していなかった。「オノマトペ + に」の形をとることができる音声のオノマトペに該当がないということは、「オノマトペ + と」と「オノマトペ + に」の両方の形をとることができる音声のオノマトペもないということになる。

7.1.3. 感情・態度を表すオノマトペ

「オノマトペ + と」と「オノマトペ + に」の両方の形をとることができ、それぞれの意味が同じであるオノマトペのうち、感情・態度を表わすものの品詞交替において、(39)の主張が成り立っている。

(39) 「オノマトペ + と」と「オノマトペ + に」の両方の形をとることができ、それぞれの意味が同じであるオノマトペのうち、感覚、感情・態度、動き・動作、状態を表わすものは、「-する」、「-だ」、「-の」に接続する全ての形が可能である。

(126)-(135)は、感情・態度を表すオノマトペの例文であるが、(39)の通り、「-する」、「-だ」、「-の」に接続する全ての形が可能である。

- (126) a. 梅雨の期間は、ちょっとした晴れ間でも心がうきうきと弾む。
 b. 梅雨の期間は、ちょっとした晴れ間でも心がうきうきする。

- c. 梅雨の期間は、ちょっとした晴れ間でも心がうきうきだ。
 d. 梅雨の期間は、ちょっとした晴れ間でもうきうきの心。

- (127) a. 梅雨の期間は、ちょっとした晴れ間でも心がうきうきになる。
 b. 梅雨の期間は、ちょっとした晴れ間でも心がうきうきする。
 c. 梅雨の期間は、ちょっとした晴れ間でも心がうきうきだ。
 d. 梅雨の期間は、ちょっとした晴れ間でもうきうきの心。

- (128) a. 馬券が大当たりして、八百屋の柿本さんはうはうはと浮かれている。
 b. 馬券が大当たりして、八百屋の柿本さんはうはうはする。
 c. 馬券が大当たりして、八百屋の柿本さんはうはうはだ。
 d. 馬券が大当たりして、うはうはの八百屋の柿本さん。

- (129) a. 馬券が大当たりして、八百屋の柿本さんはうはうはになっている。
 b. 馬券が大当たりして、八百屋の柿本さんはうはうはする。
 c. 馬券が大当たりして、八百屋の柿本さんはうはうはだ。
 d. 馬券が大当たりして、うはうはの八百屋の柿本さん。

- (130) a. 年下の彼女に会うと、たちまち智雄はでれでれと甘え出す。
 b. 年下の彼女に会うと、たちまち智雄はでれでれする。
 c. 年下の彼女に会うと、たちまち智雄はでれでれだ。
 d. 年下の彼女に会うと、たちまちでれでれの智雄。

- (131) a. 年下の彼女に会うと、たちまち智雄はでれでれになる。
 b. 年下の彼女に会うと、たちまち智雄はでれでれする。
 c. 年下の彼女に会うと、たちまち智雄はでれでれだ。
 d. 年下の彼女に会うと、たちまちでれでれの智雄。

- (132) a. 鋭い野次の応酬に、俊也はたじたじと後ずさった。
 b. *鋭い野次の応酬に、俊也はたじたじする。
 c. 鋭い野次の応酬に、俊也はたじたじだ。
 d. 鋭い野次の応酬に、たじたじの俊也。

- (133) a. 鋭い野次の応酬に、俊也はたじたじになった。
 b. *鋭い野次の応酬に、俊也はたじたじする。

- c. 鋭い野次の応酬に、俊也は**たじたじ**だ。
- d. 鋭い野次の応酬に、**たじたじ**の俊也。

- (134) a. 絶好のピクニック日和で、美佐子の心は**るるん**と弾んだ。
 b. 絶好のピクニック日和で、美佐子の心は**るるん**する。
 c. 絶好のピクニック日和で、美佐子の心は**るるん**だ。
 d. 絶好のピクニック日和で、**るるん**の美佐子の心。
- (135) a. 絶好のピクニック日和で、美沙子の心は**るるん**になった。
 b. ?絶好のピクニック日和で、美沙子の心は**るるん**する。
 c. 絶好のピクニック日和で、美沙子の心は**るるん**だ。
 d. 絶好のピクニック日和で、**るるん**の美沙子の心。

以上の例文より、これらのオノマトペにおいて(39)は成り立っている。(136)の表は、上述のオノマトペの品詞交替可能性をまとめたものである。

(136) 感情・態度を表すオノマトペの品詞交替可能性

	-する	-だ	-の	と／に
うきうき	○	○	○	と／に
うはうは	○	○	○	と／に
でれでれ	○	○	○	と／に
たじたじ	○	○	○	と／に
るるん	○	○	○	と／に

7.1.4. 動き・動作を表わすオノマトペ

「オノマトペ + と」と「オノマトペ + に」の両方の形をとることができ、それぞれの意味が同じであるオノマトペのうち、動き・動作を表わすものの品詞交替でも、(39)の主張は成り立っている。

- (39) 「オノマトペ + と」と「オノマトペ + に」の両方の形をとることができ、それぞれの意味が同じであるオノマトペのうち、感覚・感情・態度、動き・動作、状態を表わすものは、「-する」、「-だ」、「-の」に接続する全ての形が可能である。

動き・動作を表すこの種のオノマトペの例文である(137)-(144)は、実際に(39)の通り、全ての品詞交替が可能である。

- (137) a. ユリ・ゲラーの超能力で、スプーンが**ぐにやぐにや**と曲がった。
 b. ユリ・ゲラーの超能力で、スプーンが**ぐにやぐにや**する。
 c. ユリ・ゲラーの超能力で、スプーンが**ぐにやぐにや**だ。
 d. ユリ・ゲラーの超能力で、**ぐにやぐにや**のスプーン。

- (138) a. ユリ・ゲラーの超能力で、スプーンが**ぐにやぐにや**に曲がった。
 b. ユリ・ゲラーの超能力で、スプーンが**ぐにやぐにや**する。
 c. ユリ・ゲラーの超能力で、スプーンが**ぐにやぐにや**だ。
 d. ユリ・ゲラーの超能力で、**ぐにやぐにや**のスプーン。

- (139) a. 捻挫をしたという桐子の足に、包帯を**ぐるぐる**と巻いてやった。
 b. 捻挫をしたという桐子の足に、包帯を**ぐるぐる**する。
 c. 捻挫をしたという桐子の足に、包帯を**ぐるぐる**だ。
 d. 捻挫をしたという桐子の足に、**ぐるぐる**の包帯。

- (140) a. 捻挫をしたという桐子の足に、包帯を**ぐるぐる**に巻いてやった。
 b. 捻挫をしたという桐子の足に、包帯を**ぐるぐる**する。
 c. 捻挫をしたという桐子の足に、包帯を**ぐるぐる**だ。
 d. 捻挫をしたという桐子の足に、**ぐるぐる**の包帯。

- (141) a. 和馬の浮気に激怒した菜月は、婚姻届を**びりびり**と破いてしまった。
 b. 和馬の浮気に激怒した菜月は、婚姻届を**びりびり**する。
 c. 和馬の浮気に激怒した菜月は、婚姻届を**びりびり**だ。
 d. 和馬の浮気に激怒した菜月は、**びりびり**の婚姻届。

- (142) a. 和馬の浮気に激怒した菜月は、婚姻届を**びりびり**に破いてしまった。
 b. 和馬の浮気に激怒した菜月は、婚姻届を**びりびり**する。
 c. 和馬の浮気に激怒した菜月は、婚姻届を**びりびり**だ。
 d. 和馬の浮気に激怒した菜月は、**びりびり**の婚姻届。

- (143) a. 秀樹は、子どものようにパンくずを**ぼろぼろ**とこぼしてしまっている。
 b. 秀樹は、子どものようにパンくずを**ぼろぼろ**する。
 c. 秀樹は、子どものようにパンくずを**ぼろぼろ**だ。
 d. 秀樹は、子どものように**ぼろぼろ**のパンくず。

- (144) a. 秀樹は、子どものようにパンくずを**ぼろぼろ**にこぼしてしまっている。
 b. 秀樹は、子どものようにパンくずを**ぼろぼろ**する。
 c. 秀樹は、子どものようにパンくずを**ぼろぼろ**だ。
 d. 秀樹は、子どものように**ぼろぼろ**のパンくず。

以上の例文より、「オノマトペ + と」と「オノマトペ + に」の両方の形をとることができ、それぞれの意味が同じオノマトペのうち、動き・動作を表わすものの品詞交替可能性は、実際に(39)の主張に従っている。(145)の表は、上記のオノマトペの品詞交替可能性をまとめたものである。

(145) 動き・動作を表すオノマトペの品詞交替可能性

	-する	-だ	-の	と／に
ぐにゃぐにゃ	○	○	○	と／に
ぐるぐる	○	○	○	と／に
びりびり	○	○	○	と／に
ぼろぼろ	○	○	○	と／に

7.1.5. 状態を表わすオノマトペ

(39)の主張は、「オノマトペ + と」と「オノマトペ + に」の両方の形をとることができ、それぞれの意味が同じであるオノマトペのうち、状態を表わすものの品詞交替において成り立っている。

(39) 「オノマトペ + と」と「オノマトペ + に」の両方の形をとることができ、それぞれの意味が同じであるオノマトペのうち、感覚・感情・態度、動き・動作、状態を表わすものは、「-する」、「-だ」、「-の」に接続する全ての形が可能である。

(146)-(155)は、このオノマトペの例である。

- (146) a. 2日かけて煮込んだおかげで、口に入れると、お肉が**とろとろ**と溶けていく。
 b. 2日かけて煮込んだおかげで、口に入れると、お肉が**とろとろ**する。
 c. 2日かけて煮込んだおかげで、口に入れると、お肉が**とろとろ**だ。
 d. 2日かけて煮込んだおかげで、口に入れると、**とろとろ**のお肉。

(147) a. 2日かけて煮込んだおかげで、口に入れると、お肉が**とろとろ**に溶けていく。

- b. 2日かけて煮込んだおかげで、口に入れると、お肉が**とろとろ**する。
 c. 2日かけて煮込んだおかげで、口に入れると、お肉が**とろとろ**だ。
 d. 2日かけて煮込んだおかげで、口に入れると、**とろとろ**のお肉。

- (148) a. あまりの暑さで、アイスが**どろどろ**と溶けてしまう。
 b. あまりの暑さで、アイスが**どろどろ**する。
 c. あまりの暑さで、アイスが**どろどろ**だ。
 d. あまりの暑さで、**どろどろ**のアイス。

- (149) a. あまりの暑さで、アイスが**どろどろ**に溶けてしまう。
 b. あまりの暑さで、アイスが**どろどろ**する。
 c. あまりの暑さで、アイスが**どろどろ**だ。
 d. あまりの暑さで、**どろどろ**のアイス。

- (150) a. 私は洋ナシ体型で、どうしても下半身が**むちむち**と太ってしまう。
 b. 私は洋ナシ体型で、どうしても下半身が**むちむち**する。
 c. 私は洋ナシ体型で、どうしても下半身が**むちむち**だ。
 d. 私は洋ナシ体型で、どうしても**むちむち**の下半身。

- (151) a. 私は洋ナシ体型で、どうしても下半身が**むちむち**に太ってしまう。
 b. 私は洋ナシ体型で、どうしても下半身が**むちむち**する。
 c. 私は洋ナシ体型で、どうしても下半身が**むちむち**だ。
 d. 私は洋ナシ体型で、どうしても**むちむち**の下半身。

- (152) a. 太郎に薦められた育毛剤のおかげで、心なしか以前より髪が**ふさふさ**と生えてきた気がする
 b. 太郎に薦められた育毛剤のおかげで、心なしか以前より髪が**ふさふさ**する。
 c. 太郎に薦められた育毛剤のおかげで、心なしか以前より髪が**ふさふさ**だ。
 d. 太郎に薦められた育毛剤のおかげで、心なしか以前より**ふさふさ**の髪。

- (153) a. 太郎に薦められた育毛剤のおかげで、心なしか以前より髪が**ふさふさ**に生えてきた気がする。
 b. 太郎に薦められた育毛剤のおかげで、心なしか以前より髪が**ふさふさ**する。
 c. 太郎に薦められた育毛剤のおかげで、心なしか以前より髪が**ふさふさ**だ。
 d. 太郎に薦められた育毛剤のおかげで、心なしか以前より**ふさふさ**の髪。

(水分がなくなったり、強く固まったりして、表面がかたいさま。)

- (154) a. お釜で炊いたご飯が、**ほかほか**と湯気を立てている。
b. お釜で炊いたご飯が、**ほかほか**する。
c. お釜で炊いたご飯が、**ほかほか**だ。
d. お釜で炊いた**ほかほか**のご飯。

- (155) a. お釜で炊いたので、いつもよりご飯が**ほかほか**に炊き上がった。
b. お釜で炊いたので、いつもよりご飯が**ほかほか**する。
c. お釜で炊いたので、いつもよりご飯が**ほかほか**だ。
d. お釜で炊いたので、いつもより**ほかほか**のご飯。

以上の例文より、(39)は「オノマトペ + と」と「オノマトペ + に」の両方の形をとることができ、それぞれの意味が同じオノマトペのうち、状態を表わすものの品詞交替において成り立っている。(156)の表は、上述のオノマトペをはじめとする状態のオノマトペの品詞交替可能性示している。

(156) 状態を表すオノマトペの品詞交替可能性

	-する	-だ	-の	と／に
とろとろ	○	○	○	と・に
どろどろ	○	○	○	と・に
むちむち	○	○	○	と・に
ふさふさ	○	○	○	と・に
ほかほか	○	○	○	と・に
びかびか	?	○	○	と・に

(156)の表の通り、これらのオノマトペでは、すべての品詞交替が可能であり、(39)に従っている。

7.2. 意味が異なるオノマトペ

「オノマトペ + と」と「オノマトペ + に」の両方の形をとることができるオノマトペには、次の例文のようにそれぞれの意味が異なるものもある。

- (157) ハムスターがひまわりの種を**かりかり**とかじっている。
(かたいものを調子よくかみ砕く軽快な音。かたくて歯切れのよいさま。)

- (158) じっくり時間をかけて焼くと、トーストは**かりかり**に仕上がる。

これらの例を本論文の意味分類に当てはめると、(157)は「オノマトペ + と」の形をとるオノマトペのうち、音声を表わすオノマトペの例文となり、(158)は「オノマトペ + に」の形をとるオノマトペのうち、状態を表わすオノマトペの例文となる。同じ「かりかり」という語であるが、表す意味は異なっており、それぞれが表す意味によって、副詞用法でとる形も異なっている。このことを考慮すると、2つのオノマトペは、意味と機能が異なる全く別個のオノマトペであるといえる。また、このようなオノマトペは、品詞交代可能性もそれぞれの意味分類に対応している。よって、本論文では、(157)、(158)のように形態上は同じオノマトペであっても、異なる意味を持つオノマトペは、それぞれの用法と意味に当てはまる分類の主張に従っていると考える。

8. アクセントの影響

日本語はピッチ・アクセントを持つ言語であり、全ての語彙の各音節に「高」か「低」のピッチ・パターンがある。オノマトペも、他の語彙と同じく独自のアクセントを有しており、田守（1991）でもその音声的相違が報告されている。田守（1991）によれば、様態副詞として機能するオノマトペと結果副詞として機能するオノマトペでは、ピッチ・パターンが異なる。標準日本語では、様態副詞は(159)に示されるように「高低低低」の音調型を、結果副詞は(160)に示されるように「低高高高」の音調型を持つ。なお、アクセントの「高」位置を、太字で表している。

(159) 様態副詞（オノマトペ + と）

- a. **ごろ**ごろ
- b. **じろ**じろ [田守 1991: 132 (14)]

(160) 結果副詞（オノマトペ + に）

- a. **びしょ**びしょ
- b. **くたくた** [田守 1991: 132 (15)]

オノマトペは、副詞用法だけでなく品詞交替の際にも独自の音調型をとりうる。(161)に示されているように、「-する」が接続する場合、オノマトペは「高低低低」のピッチ・パターンをとり、「-だ」や「-の」が接続する場合には、「低高高高」をとることが可能である。

- (161) a. **い**がいがと
b. **い**がいが**する**（オノマトペ + する）
c. **い**がいが**だ**（オノマトペ + だ）
d. **い**がいが**の**（オノマトペ + の）

(161)の通り、品詞交替に伴いアクセントが異なる形態となるオノマトペも確かに存在している。しかしながら、本論文で扱ったオノマトペの多くは、(161)のように、品詞交替によってアクセントが変化しても、オノマトペの持つ意味は変化せず、本論文の考察に影響を与えるものではないと考えられる。しかしながら、アクセントと品詞交替に何ら関係がないとは考えるべきではない。品詞交替を扱った宮地（1978）、田守（1991）や中北（1991）などの研究では、品詞交替可能性についてアクセントの側面から考察が行われていないが、

上述の通り、アクセントとオノマトペの意味には少なからず関係があることが明らかであるため、今後は、アクセントの側面からも品詞交替可能性について考察を行う必要がある。しかしながら、本論文で提起した(26)の問題は、本論文のように、意味だけでなく「オノマトペ + と」や「オノマトペ + に」の形式から考えることで解明することができるのも事実である。

9. まとめ

本論文では、オノマトペの品詞交替可能性について(26)の問題を提起した。

(26) オノマトペの品詞交替とオノマトペの機能的特徴は、全く恣意的なものなのか。

そして、副詞用法でのオノマトペに着目し、(26)の問題に対して(31)を主張した。

(31) オノマトペの品詞交替可能性は恣意的なものではなく、副詞用法で「オノマトペ + と」、「オノマトペ + に」、あるいはその両方の形をとるかによって、それぞれ共通した品詞交替可能性を持っている。

副詞用法で「オノマトペ + と」、「オノマトペ + に」、あるいはその両方の形をとるものが、それぞれ具体的にどのような品詞交替可能性を持っているかについては、以下のように主張した。(32)、(33)は、「オノマトペ + と」の形をとることができ、「オノマトペ + に」の形をとることができないオノマトペの品詞交替可能性に関する主張である。

(32) 「オノマトペ + と」の形をとることができ、「オノマトペ + に」の形をとることができないオノマトペのうち、感覚を表わすものは、「- する」、「- だ」、「- の」に接続する全ての形が可能である。

(33) 「オノマトペ + と」の形をとることができ、「オノマトペ + に」の形をとることができないオノマトペのうち、音声、感情・態度、動き・動作、状態を表わすものは、「- する」、「- だ」、「- の」に接続する全ての形が可能か、全ての形が不可能かのどちらかである。

(35)-(37)は、「オノマトペ + に」の形をとることができ、「オノマトペ + と」の形をとることができないオノマトペの品詞交替可能性に関する主張である。

(35) 「オノマトペ + に」の形をとることができ、「オノマトペ + と」の形をとることができないオノマトペのうち、感覚を表わすものは、「- する」、「- だ」、「- の」に接続する全ての形が可能である。

(36) 「オノマトペ + に」の形をとることができ、「オノマトペ + と」の形をとること

ができないオノマトペのうち、感情・態度を表わすものと動き・動作を表すものは、「- する」に接続する形が不可能だが、「- だ」、「- の」に接続する形は可能である。

(37) 「オノマトペ + に」の形をとることができ、「オノマトペ + と」の形をとることができないオノマトペのうち、状態を表わすものは、「- する」に接続する形が可能な場合でも不可能な場合でも、「- だ」、「- の」に接続する形が可能である。

(39)は、「オノマトペ + と」と「オノマトペ + に」の両方の形をとることができ、それぞれの意味が同じであるオノマトペの品詞交替可能性に関する主張である。

(39) 「オノマトペ + と」と「オノマトペ + に」の両方の形をとることができ、それぞれの意味が同じであるオノマトペのうち、感覚、感情・態度、動き・動作、状態を表わすものは、「- する」、「- だ」、「- の」に接続する全ての形が可能である。

このように、本論文では、オノマトペの品詞交替可能性は、副詞用法でどのような形をとるかという機能的特徴によって分かれていると結論付けた。

10. 参考文献

- 小野正弘 (2007) 『擬音語・擬態語 4500 日本語オノマトペ辞典』東京都：小学館
- 鈴木泰 (1980) 「情態副詞の性質についての小見」『山形大学紀要 (人文科学)』第 9 卷第 3 号：287-322 (45-80) . 山形県：山形大学
- 田守育啓 (1991) 『日本語オノマトペの研究』兵庫県：神戸商科大学研究所
- 田守育啓・ローレンス・スコウラップ (1999) 『オノマトペ：形態と意味』東京都：くろしお出版
- 中北美千子 (1991) 「擬音語・擬態語と形式動詞「する」の結合について」『国文目白』247-256. 東京：日本女子大学国語国文学会
- 宮地裕 (1987) 「擬音語・擬態語の形態論小考」『国語学』115 集：33-39. 東京：国語学会

謝辞

本論文の執筆にあたって、あたたかいご指導・ご協力をいただきました方々に、この場を借りて心からの謝意を表します。まず、主査教員となっていた九州大学文学部言語学研究室の上山あゆみ先生には、本論文の執筆の際に的確な助言とご指導をいただきました。心より感謝を申し上げます。同研究室の他の先生方にも、この3年間を通して多くのことを教えていただきました。先生方の指導があったからこそ、言語学のおもしろさ・奥深さを知り、この論文の執筆に至ることができました。深く感謝いたします。同研究室の池田則之氏には、テーマ設定から論文の完成に至るまで、大変お世話になりました。池田氏の懇切丁寧なご指導と激励なくしては、本論文の完成はありえませんでした。どれだけ感謝の言葉を尽くしても足りません。また、同研究室の諸先輩方にも、折に触れて差し入れや励ましの言葉をいただきました。同じ卒論執筆生として共に励みあった九州大学文学部言語学研究室の皆様にも感謝申し上げます。卒論という大きな課題を前に、もやもやと思いつらぬ、へなへなと心折れそうになることもありましたが、共に頑張る皆様の存在が私の力になっていました。この研究室での経験は、今もこれからも私の心をぽかぽかとあたためる財産です。

最後に、上記の方々をはじめとして、ここには載せきれないほどの数多くの皆様の支えのおかげで、この論文の完成に至ることができました。感謝の念にたえません。本当にありがとうございました。